

[泌尿器科]

[研修の目標]

泌尿器科疾患について、プライマリ-ケアを含む患者診療を適切に行えるよう病態生理に基づいた知識、技術を修得する。

[研修指導医]

永田 仁夫(泌尿器科部長)

日本泌尿器科学会指導医、浜松医科大学非常勤講師

[研修コース]

各科ローテートの一環として、一般臨床医に求められる泌尿器科疾患の基本的な診察知識・手技を修得する3ヶ月コースおよび6ヶ月コースの研修を予定しているが、希望に応じて研修期間を変更できる。

[研修指導体制]

病棟では、スタッフの一員として入院患者の治療に従事し、全身、局所管理が適切に行えるように努める。外来では、指導医のもと検査や処置の介助、実践を行う。

[研修内容および到達目標]

① 一般検査手技

<3ヶ月コース>

理学検査(腎、膀胱、前立腺触診、陰嚢内容触診)、検尿、血液生化学検査、尿道分泌液、精液検査、尿流量検査、X線検査(DIP)、超音波検査(経腹エコー)

<6ヶ月コース>

内視鏡検査(膀胱鏡検査)、経直腸エコー下前立腺生検、X線検査(膀胱、尿道造影)

② 入院患者管理

手術適応の判断を中心に術前後の管理に当たる。癌患者の照射、化学療法時の管理をおこなう。また、重症尿路感染症、終末期医療の管理も担当する。

③ 泌尿器科救急医療

尿閉、結石発作、膀胱タンポナーデ、急性陰嚢症、諸カテーテルトラブルの対処を適切に伝えることを目的とする。